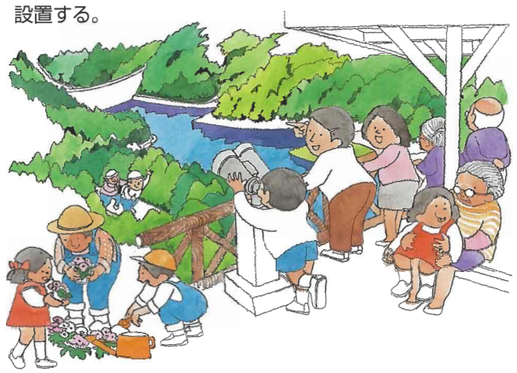
5a-2 自然散策路の整備

●周辺資源・施設と湖を結ぶ散策路を整備する。
●既存の道を散策路として位置づけ、必要に応じて改修や景観整備を行う。
●散策路沿いの環境整備を行い、小渋湖を望める展望施設を設置する。



5b-1 小渋ダムインフォメーションセンターの活用

●小渋ダムインフォメーションセンターを、ダムの案内紹介だけでなく、地域活性化・地域間交流・自然体験活動等に積極的に活用する。
●南アルプスのビジターセンターの役割の一部を担うことを検討する。

5c-2 防災施設の整備

●災害および地震大雨等異常な自然現象に起因して大規模な災害が予測される場合や発生した場合の建設機材、資材の確保・保管等のための施設を整備する。
●国、県、町村等による防災倉庫等を設置する。

ビジョンの実現のために

活動内容に描かれたビジョンを実現化するためには、それぞれに「計画・準備」、「整備」、「管理・運営」の段階があります。各段階で、地域住民の皆さんや関係する諸団体の連携・協力が必要です。

安全安心で幸せを感じる地域づくりのため、みなさん自身が関心のある活動に是非ご参加ください。なお、ビジョン策定時点（H17.11月現在）でも、新たな地域団体との連携活動や防災倉庫の設置が動き始めています。

水源地域ビジョンの策定と、今後その進捗状況の評価を行っていく水源地域協議会は、下図のような機関・団体等で構成されています。

水源地域協議会の構成
（ビジョン策定と進捗状況の評価）

地元各種団体等
- 大鹿村観光協会
- 小渋川土地改良区
- 下伊那漁業協同組合

学識経験者
- 信州大学名誉教授

地域住民団体等
- 中川村桑原地区
- 中川村渡場地区
- 松川町生田　生東区
- 市民団体　天竜川ゆめ会議

関係行政機関
- 長野県上伊那地方事務所
- 長野県下伊那地方事務所
- 長野県伊那建設事務所
- 長野県飯田建設事務所
- 長野県企業局南信発電管理事務所
- 農水省南信森林管理署
- 国交省天竜川上流河川事務所

ダム管理者
- 国交省天竜川ダム統合管理事務所

地元自治体
- 中川村
- 松川町
- 大鹿村

●お問い合せ

中川村役場　建設課
上伊那郡中川村大草4045-1
TEL　0265-88-3001
FAX　0265-88-3890

松川町役場　建設水道課
下伊那郡松川町元大島3823
TEL　0265-36-3111
FAX　0265-36-5091

大鹿村役場　産業建設課
下伊那郡大鹿村大河原354
TEL　0265-39-2001
FAX　0265-39-2269

国土交通省　中部地方整備局
天竜川ダム統合管理事務所　管理課
上伊那郡中川村大草6884-19
TEL　0265-88-3743
FAX　0265-88-3697

「幸せの交流舞台　こしぶだに」の由来

基本理念にある「安全で住みやすく、心安らぐ生活の舞台」を『幸せの舞台』と表しました。そして、水源地域内に住む人々同士の交流やこの地を訪れる他地域の人々との交流を通じて地域活性化を実現させていく意味を加えて『幸せの交流舞台』としています。また、『こしぶだに』は、水源地域の全体を示す名称であるとともに、「～だに」という方言にも重ねて小渋の将来の姿を強調しています。

幸せの交流舞台

Koshibu-dani

こしぶだに

◆◆◆ 小渋ダム水源地域ビジョン ◆◆◆

小渋ダム水源地域ビジョンとは

「小渋ダム水源地域ビジョン」とは、流域住民や自治体、関係行政機関及び関係諸団体等が連携し、小渋ダムの水源地域である小渋川流域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図るための、様々な行動計画です。

平成16年度より小渋ダム水源地域協議会が「小渋ダム水源地域ビジョン」の話し合いを重ね、地域のみなさんとの意見交換会を経て平成17年11月に同協議会で策定されました。

小渋ダム水源地域協議会

幸せの交流舞台 Koshibu-dani こしぶだに ◆小渋ダム水源地域ビジョン◆

小渋ダム水源地域ビジョンの展開

水源地域ビジョンの基本理念（水源地域の目指す将来像）

基本理念（水源地域の目指す将来像）

①南アルプスと天竜川に抱かれた小渋川水源地域の3町村のつながりを強め、協働して地域活性化に取り組んでいます。
②水源地域の宝を保全・育成し、日本国内はもとより海外へもその魅力を発信しています。
③この地は安全で住みやすく、心安らぐ生活の舞台があります。

ビジョンの柱

- 1 小渋川流域住民、関係行政機関の連携
- 2 小渋川の水を軸とした地域間交流の促進
- 3 小渋川流域の産業の振興と育成
- 4 自然環境・文化環境の活用
- 5 地域との連携を促進するための環境整備

＜推進体制整備＞

＜基盤整備／情報発信＞

活動テーマ

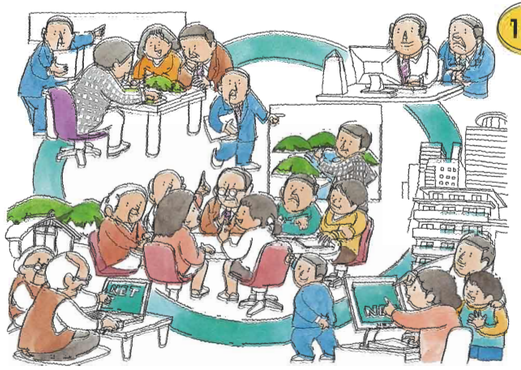
- 1a 既存民間活動団体の連携
- 1b 民間団体・住民と行政との協働
- 1c 行政同士の連携
- 2 流域外との交流促進
- 3 農業の6次産業化（注）
- 4 南アルプス・中央構造線の自然・歴史文化体験
- 5a 川と森の保全・整備（南アルプスは世界の遺産）
- 5b トータルな情報発信
- 5c 防災体制の強化
- 5d 水源地域とのつながり強化

（注）農業の6次産業化　農業が1次産業のみにとどまるのではなく、2次産業（農畜産物の加工・食品製造）や3次産業（卸・小売、情報サービス、観光など）にまで踏み込むこと。（1次産業×2次産業×3次産業＝6次産業）

活動内容

- 1-1 小渋ネットの創設
- 1-2 民間団体・住民・行政の協働・連携
- 2-1 小渋湖まつりの拡充
- 2-2 交流イベント・活動の連携・拡充
- 2-3 山村留学制度の創設
- 3-1 おらが村の特産品の開発
- 3-2 観光農園・体験農園
- 3-3 ワーキングホリデーの開催
- 3-4 グリーンツーリズムの推進
- 4-1 体験型学習の推進
- 4-2 歌舞伎など伝統文化の活用
- 4-3 食の文化祭の開催
- 5a-1 河川環境の保全と整備
- 5a-2 自然散策路の整備
- 5a-3 水源の森の保全と整備
- 5b-1 小渋ダムインフォメーションセンターの活用
- 5b-2 HP活用　宝マップの作成
- 5c-1 防災学習・情報インフラの整備
- 5c-2 防災施設の整備
- 5d-1 水源地域を結ぶ道路整備

水源地域ビジョンで描いた事業のうち、主な事業内容を紹介します。

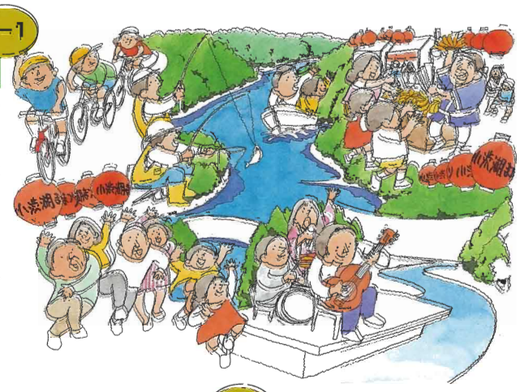


1-1 小渋ネットの創設

交流・連携の受け皿・調整、メーリングリストの活用などを行うネットワーク（共同作業の場）を創設する。

2-1 小渋湖まつりの拡充

●ダム湖や堤体を積極的に活用する。
●例えば「小渋ネット」が開催する年1～2回程度のイベント・フォーラムを併せて開催し、ビジョンの推進を象徴するような交流イベントに育て上げていくことが考えられる。



2-3 山村留学制度の創設

●都会の子供達に南アルプスの恵まれた自然の中で学んでもらう。
●自然体験・生活体験だけでなく防災など水源地域の役割や大切さを学んでもらう。
●地域の潜在的なファンになってもらい、繰り返し地域を訪れてもらう。

3-1 おらが村の特産品の開発

地域の魅力を象徴する産品を開発し、地域ブランドとして育成する。

4-1 体験型学習の推進

●エコツーリズムやエクスカーションの推進のための体験型プログラムの開発とガイド・インストラクターの養成を行う。
●南アルプス登山も対象としたガイドの養成も図る。

4-3 食の文化祭の開催

●各家庭が、地元で採れた食材を使った料理を持ち寄る「食の文化祭」を開催する。
●地元の食材の豊かさを再確認するとともに、特産品開発の契機にする。
●「小渋湖まつり」や特産品開発の品評会、また他イベント等と連携もしくは合わせて開催する。